



ゆめ半島
千葉国体
2010

国体の記憶 ⑦

あの熱気を再び

このコーナーに登場してくれる人を募集します。
くわしくは広報課(☎20-15503)へ。



伊藤 菜津美さん(吾妻)

吾妻生まれ。順天堂大学バレーボール部所属。平成19年、敬愛学園高校3年時に佐賀総体(インターハイ)出場、決勝トーナメント進出。同年、千葉県選抜に選ばれ秋田国体に出場。ベスト16入り。

バレーボール選手としては、小柄な155cm。しかし、その小さな体から発せられる声はひとときわ大きい。

「全体を見渡して仲間を掛けるのがわたしの役目。だからいつも全力で声を出しています」

ポジションはレシーブの要・リベロだ。自分で得点を挙げることはできず、ミスをするとうりに動揺を与えてしまう地味で難しいポジションだが、「アタッカーへの指示がポイントにつながることも多い。守りだけじゃないんです」とその役割への誇りをはっきりと口にする。

バレーボールの強豪・敬愛学園高校に進学。1年時に千葉県で開催されたインターハイに出場し、全国レベルを目の当たりに。「次は県ナンバー1になってインターハイに出る」と目標を据えた。

その思いは3年時に結実する。キャプテンを任せられたインターハイ県予選。膝の故障に苦しみながらもチームをまとめて勝ち進んだ。そしてつい手にした「優勝」。どこか信じられない気持ちとともに「ナンバー1」になっ



県選抜のメンバーと
(前列左から2番目が伊藤さん)

た喜びがこみ上げた。

インターハイ本戦を終えると、県国体選抜に指名された。キャプテン・上級生として常にメンバーに気を配る必要があった高校チームとは違い、選抜チームでは自身のプレーに集中することができた。他校に通つてのレベルの高い練習。これまでのライバルたちと互いを高め合えた強化合宿。そこで流した汗は、順天堂大学でバレーボールを続ける今、「かけがえのないもの」になっている。

国体は全国のトップクラスが集う国内競技の最高峰。選手たちが見せる気迫や張り詰めた空気、会場の熱気には圧倒されるものがあるという。「地元で開催される、またとない機会。あの興奮を多くの人に味わってもらいたい」。そう1年半後に迫った千葉国体への期待をにじませた。

編集後記

5年ぶりに開催される「成田 山車まつり」。市内で曳き廻されている山車・屋台が一堂に会し表参道を巡行します。ただ、一部参加できないところがあるのは残念です。各町内の本祭のほかに山車・屋台を市役所まで運び込む関係者の苦労は並大抵ではありません。それでも、仲之町の大坂を力を合わせて駆け上がりたという気持ちが、祭りをやる若者にはあるんですね。



成田市役所本庁舎
(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)
はISO14001の認証登録を受けています。

平成21年4月15日号 No.1145

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>